おはなしのくに

日本の昔話

イラスト　櫻井 砂冬美

むかし、あるところに、なかのいいおじいさんと
おばあさんがおりました。
ある日、おじいさんは山のはたけで、
まめまきをしていました。

おじいさん
♪一つぶのまめは千つぶに
二つぶのまめは万(まん)つぶになあれ
一つぶのまめは千つぶに
二つぶのまめは万(まん)つぶになあれ

するとそこへ、
たぬきがかおをだしました。

たぬき「へっへっへ。
ほれほれ、一つぶのまめは
一つぶのまんまじゃ」

おじいさん「おまえはいつも
はたけをあらしとるたぬき
だな。しっしっ、あっちへいけ」

たぬき「あっかんべーだ。ぱくぱくぱく」

おじいさん「このわるだぬきめ！そりゃ！」

（ポコッ）

（パタン）

くわはみごとたぬきにめいちゅう。

おじいさんは、きぜつしたたぬきをかついで

家（いえ）にかえりました。

おじいさん「ばあさんや、ばあさんや。
ほれわるいたぬきをつかまえた。
こんやはたぬきじるじゃ。米(こめ)をついとくれ」
おばあさん「はいはい。わかりましたよ」
おじいさんは、たぬきを天じょうにくくりつけると、
また、はたけにでかけていきました。
（とんとんとん、とんとんとん）
おばあさんは、
もみがらのついた米(こめ)をつきはじめました。
（とんとんとん、とんとんとん）
たぬき「ばあさん、ばあさん」
おばあさん「うん？なんじゃ」

たぬき「一人で米つきは
たいへんじゃろ。おらが
てつだってやるから、
このなわをほどいてくれ」
おばあさん「だめじゃ、
だめじゃ。うまいことを
いってにげるつもりじゃろ」
たぬき「かわいそうなたぬき
のおねがいじゃ。
しぬ前に人だすけがした
いんじゃよ」
おばあさん「うーん。そんなに
いうならしかたねえなあ」

おばあさんはたぬきのなわをほどいてやり、
二人は米つきをはじめました。

（とんとんとん、とんとんとん）

たぬき「ばあさん、これくらいかのう？」

おばあさん「どれどれ」

おばあさんがうすを

のぞきこんだその時です。

（ズドン）

おばあさん「ひゃあ…」

たぬき「へっへっへっ…」

たぬきはきねでおばあさんをなぐりたおすと、

まんまと山へにげていきました。

おじいさん「ばあさん、かえったぞ…。あ、ばあさん！
しっかりしろ！ばあさん！ああ、うううう……」
そこへ、うさぎがやって来ました。
うさぎ「じいさま、なんでないとるんじゃ？ば、ばあさま！」
おじいさん「うう…。たぬきのやつに、
ばあさんをころされてしもうた」

うさぎ「あのわるだぬきめ。
おらをかわいがってくれた
やさしいばあさまに
なんてことを！
じいさま、ばあさまの
かたきは、おらがきっと、
とってみせる！」

（がさがさ）

うさぎがかや山でかやをかっていると、

たぬきがやって来ました。

たぬき「おい、うさぎどん。なんで

かやをかっとる？」

うさぎ「やあ、たぬきどん。

冬はとてもさむいから、

かやであったかい小屋

をつくろうとおもってな」

たぬき「そんなら、

おらもてつだうから、

その小屋に入れとくれよ」

うさぎ「いいともさ」

うさぎとたぬきは、かりおわったかやをせおうと、
山を下りはじめました。
（かちかち、かちかち）
たぬき「ん？うさぎどん、
かちかちいうのはなんの音だ？」
うさぎ「かちかち山の
かちかち鳥がないとるんじゃ」
たぬき「そうか、そうか」
でもじつは、うさぎが
火うち石をかちかちうって、
たぬきのせなかのかやに
火をつけていたのです。

（ぼうぼう、ぼうぼう）

たぬき「ん？うさぎどん、ぼうぼういうのはなんの音だ？」

うさぎ「ぼうぼう山のぼうぼう鳥（どり）がないとるんじゃ」

たぬき「そうか、そうか。あ、ん？あつい、あつい！

たすけてくれ、うさぎどん！うさぎどーん…！」

かやはみるみるもえ上がり、たぬきのせなかは

まるやけになりましたが、

うさぎはしらんかおでにげてしまいました。

（ゴリゴリ、ゴリゴリ）

つぎの日、たぬきがうさぎの家にやってきました。

たぬき「いててて…。おい、うさぎ。きのうはひどい目にあわせてくれたな！」

うさぎ「なんのことじゃ？それは、かちかち山のうさぎじゃろ。おらは、とうがらし山のうさぎじゃ。きのうから、ここでずっと、やげとによくきくみそを作っとる」

たぬき「そうか。すまんかった。なあ、そのみそ、おらのせなかのやけどにぬってくれ。いたくてたまらんのじゃ」

うさぎ「よしきた。ぬってやろう」

（ぺたぺた）

でもじつは、うさぎはみそにとうがらしを
たっぷりと入れていたのです。
たぬき「あわわ、いたい、あつい！いたい、あつい！
たすけてくれ、うさぎどーん！」
たぬきはそこらじゅうをころげまわりましたが、
うさぎはしらんかおでにげてしまいました。

（コン、コン）

つぎの日。うさぎがまつの木をきっていると、たぬきがやって来ました。

たぬき「おい、うさぎ。きのうはひどい目にあわせてくれたな！」

うさぎ「なんのことじゃ？　それは、とうがらし山のうさぎじゃろ。おらは、まつの木山のうさぎじゃ。きのうから、ここでずっと、魚（さかな）とりのふねをつくっとる」

たぬき「そうか。すまんかった。なあ、おらのふねもつくってくれ」

うさぎ「いいともさ」

うさぎはじぶんには木のふねを、
たぬきにはどろのふねをつくりました。
二人は川へくりだしました。うさぎがうたいます。
うさぎ♪木のふね　すいすいえんやあとっと
（ぽんぽん）
どろぶね　ぶくぶくえんやあとっと
（ぽんぽん）
うさぎ「ほれ、たぬきどんも、
やってみろ」
たぬき「はは！よしきた」
たぬき♪　木のふね　すいすい
えんやあとっと
（ぽんぽん）
どろぶね　ぶくぶく
えんやあとっと
（ぽんぽん）

（ざっくり、ぶくぶくぶく…）

でもじつは、どろのふねは水によわかったのです。

それをたぬきが力いっぱいたたいたものだから、

どろのふねはわれてしずみはじめました。

（ぶくぶく、ぱちゃぱちゃ）

たぬき「およよ、おらは

およげないんだ。

たすけてくれ、うさぎどん！

うさぎどーん！」

（ぶくぶく……）

たぬきは川のそこへしずんで

いきましたが、うさぎは

しらんかおでにげてしまい

ました、とさ。

おわり